

## 広聴広報委員会視察報告概要

### 【三重県伊勢市】

- 1 視察日時 令和4年10月25日（火）  
午後2時から午後3時30分まで
- 2 視察先及び視察事項
  - ・視察先 三重県伊勢市議会
  - ・視察事項 「高校生議会」について
- 3 参加委員  
委員長 浅野 美恵子 副委員長 小林 澄子  
天野 敦 佐野 允彦 石原 昂 平井 明美 末吉 美帆子 亀山 恭子  
谷口 雅典 福原 浩昭 松本 明信 越阪部 征衛

### 4 視察の目的

本市議会では平成21年の議会基本条例制定をはじめ、議会改革を進めてきた中で、議会活動の広聴広報分野においては、市議会だよりの充実や議会報告会などの取組を中心に、広聴機能、市民参加について充実を図るべく、議会報告会でワールドカフェ方式での市民との意見交換を行っている。また、今年度は初の取組として、若い世代の声を聴き、市政に反映する契機とするため、市内高校と連携し、高校生との意見交換会を開催するなど、高校生を対象とした広聴広報活動をスタートさせた。

伊勢市議会では、主権者教育の一環として、未来を担う高校生が模擬議会を体験することにより、市政や議会など政治に関心を深めてもらうことを目的に、市内高校と連携して高校生議会を開催しており、この取組について視察し、今後の委員会としての若年層に向けた広聴広報活動の参考とするため視察を行った。

### 5 視察の概要

伊勢市議会世古明議長から歓迎の挨拶、浅野委員長の挨拶の後、担当者から視察事項の説明、質疑応答が行われた。その後、小林副委員長の御礼の挨拶、議場見学を行い、視察を終了した。

## 6 概要説明

### 【経緯】

平成 27 年 6 月に公職選挙法の一部が改正され、選挙権年齢が満 20 歳以上から満 18 歳以上に引き下げられた。また、平成 29 年度から伊勢市議会と連携していた皇學館大学の学生と意見交換する中で、高校生に政治への関心や興味を持ってもらうための取組として「伊勢市高校生議会」の実施を検討した。

平成 30 年度には、三重県議会事務局が開催した「みえ高校生県議会」の傍聴等を行うとともに、他市議会の事例等も参考に、当時の広聴検討分科会で開催要項・募集要領等を作成し、令和元年度にファシリテーター役として、皇學館大学生が議長役を務め、初開催した。

### 【開催目的】

市民に開かれた議会を目指すとともに、議会活動を広く理解してもらえるような議会の活性化に取り組んでいる。伊勢市高校生議会は、その取組及び主権者教育の一環として未来を担う高校生が模擬議会を体験することにより、市政や議会など政治に関心を深めてもらうことを目的に開催し、今後の市政の参考にするために開催している。

### 【課題】

主権者教育の一環として高校生を対象に実施しているが、参加した一部の高校生しか対象になっていないことが課題である。

### 【効果】

令和 4 年 8 月 10 日に開催した高校生議会で出た意見等は、9 月 2 日に正副議長から市長に意見等の共有を行ったことで、高校生から指摘のあった道路の消えかかた停止線の塗り直しが行われた。また、バスの本数を増やしてほしいと要望があった高校に対し、担当部署から聞き取りを行うなど、今後の施策への反映が期待できる。

## 7 質疑応答

質疑 高校生議会はものすごい時間とエネルギーをかけて本番まで準備をしていると思うが、質問に対する答弁案は執行部と協議して作成しているのか。また、YouTube 公式チャンネルの動画に字幕が付いていたが、動画は広聴広報検討分

科会で作成しているのか、外注しているのか、それとも事務局が作成しているのか。

応答 答弁案については執行部が作成していますが、各常任委員会の中で内容を確認しながら最終調整を行い、答弁を作成しています。また、答弁内容は事前に各高校に提供しています。YouTube の字幕につきましては、平成 30 年に市役所全体の改修が行われ、議場と委員会室の音響設備を一新しています。以前はケーブルテレビ会社が議場内で撮影していましたが、今は備え付けの設備で事務局がテロップを付けることができます。出来上がった動画を編集ソフトで編集して、伊勢市議会の YouTube チャンネルで公開しています。これは高校生議会でも同じものを使っています。

質疑 執行部と議会で調整を行って議員が答弁していたが、執行部の役割を政治家が担って回答することになるので、政治家によっては回答内容を変更したいということがあると思うが、そういった質問は今までなかった。

応答 伊勢市議会として高校生議会をやっているのので、答弁として相応しくないということもあります。それについては、執行部が作成した答弁案を基に、議会の中で議論はしていますが、あくまで市の答弁ということを心得ながら答弁しています。

質疑 高校生から質問項目を出してもらっているが、市政に対する予備知識がないと、既に実行されている事業についての質問が出ることもあると思うが、よい質問にするために高校生の知識を深めていくような努力はしているのか。また、議会ツアーは子供たちが非常に楽しそうに参加していたが、応募が殺到することも懸念されるので、どの程度までは受け付けられるというような考えはあるのか。

応答 質問項目の調整については、高校生に事前に伊勢市の政策を知ってもらいつつ、事務局が調整を行っていますが、内容について高校生は色々と考えているので、議会側から特にアドバイスはしておりません。議会ツアーの日程調整ですが、今まで行っている中で、1 度だけ 2 クラス一緒に約 50 人に参加していただいたので、コロナ禍ということもあり、いっぺんに議場に入っただくことができなかつたことがありました。その際は、委員会や他の施設を使いながら開催しましたので、そのくらいまでであれば受け付けることは可能ではないかと考えています。応募数については、始めたばかりですので、手探りの状況です。もしかするとお断りすることもあるかもしれませんが、ある程度は対応可能だと思います。

質疑 これまで高校生議会を3回開催して、参加校から出た意見を市長と共有しているが、実現した事例はあったのか。また、若者が議会に関心を持つことで投票率の向上につながるとのことだが、投票率の変化はあったのか。最後に、高校生議会の参加人数を増やすことなどを検討しているとのことだが、課題だと考えていることを伺いたい。

応答 市長との意見共有については、広聴広報検討分科会の中で出された意見をどうしてくのかという議論を行いました。その中では、「個々の議員が一般質問をすればよいのではないか」「高校生だけの意見を聞くのか」といった色々な意見が出まして、それならばということで生の声をそのまま市長に知ってもらうということになり、市長にも様々なことを検討してもらっている。一例として消えかかっている道路の一時停止の白線を塗りなおしたり、新たに一時停止の箇所を設定したり、夜間高校の生徒の交通手段が少ないということで県の教育委員会と調整を行っています。投票率の向上については反映されたかについては疑問が残るところですし、高校生議会に参加してもらえる人数も限られているので、参加していない生徒にもどうやって広げていくのが今後の課題だと感じています。参加人数については、各高校2～3人です。主権者教育を実施していくという部分では各学校に出向いて行くということも検討する必要があるのではないかと考えています。伊勢市選挙管理委員会では各高校に出向いての出前授業を行っていますので、市議会としてもそういったことを検討しております。また、議会ツアーも同様で、クラス数が多い学校には参加していただけていない状況ですので、学校の要望を聞きながら、啓発として出向いて行く必要もあるのではないかと考えています。

質疑 課題の出前授業についてはどこまで検討しているのか伺いたい。高校生議会では一般質問形式での質疑応答だったが、高校生とのざっくばらんな話し合いではなく、そのような形式にした理由はあるのか。

応答 高校生議会を開催するにあたって、各高校に広聴広報検討分科会の正副会長と事務局で出向いた時に学校側から出前授業の提案がありました。しかし、分科会ではそのような意見があったという報告までで検討には至っていません。一般質問形式を取った理由については、第1回を開催する際に三重県議会の高校生議会を参考にし、同じような形式で開催したことが始まりです。

質疑 議会のあり方調査特別委員会の中で分科会を設置されているが、他の議会では分科会で運営しているケースを見たことがないので、分科会とした理由を伺いたい。また、議会ツアーを企画した経緯や参考にした自治体があれば伺

いたい。

応答 分科会とした理由の詳細は不明ですが、議会改革を進めていくにあたり3つの分科会に分かれて、それぞれが専門的に取り組んでいます。色々なやり方があると思いますが、この3本柱で、特に今後は議会のICT化を進めていく必要があると思っています。議会ツアーを始めた経緯ですが、地元の皇學館大学と連携しておりまして、そこの大学生から平成30年に企画書をいただいていたしまして、高校生議会を始めるにあたり、議会ツアーも令和4年度から始めました。議会を見学する企画を開催している自治体の取組を参考にしながら、今の形を作り上げています。

## 8 委員長所感

主権者教育の一環として、未来を担う高校生が模擬議会をどのように体験しているのかを知ることができた。高校生が議員役になり、伊勢市に望むことや疑問点等を本会議場において質問し、市議会議員が市職員役を担い答弁していた。高校生議会で、出た意見等を市長部局と共有するため、正副議長が市長に提出し、通学路の安全対策で改善された事例があった。また、高校生議会の様子は伊勢市議会公式YouTubeチャンネルで公開していて、画期的な取組だと感じた。若年層に向けた広聴広報活動や市民に開かれた議会を目指す上で、とても参考になった。

## 【大阪府八尾市】

- 1 視察日時 令和4年10月26日（水）  
午前10時から午前11時30分まで
- 2 視察先及び視察事項
  - ・視察先 大阪府八尾市議会
  - ・視察事項 「市議会×高校生プロジェクト」について  
「Meet & Greet with 八尾市議会 2019」  
について
- 3 参加委員  
委員長 浅野 美恵子 副委員長 小林 澄子  
天野 敦 佐野 允彦 石原 昂 平井 明美 末吉 美帆子 亀山 恭子  
谷口 雅典 福原 浩昭 松本 明信 越阪部 征衛
- 4 視察の目的  
本市議会では平成21年の議会基本条例制定をはじめ、議会改革を進めてきた中で、議会活動の広聴広報分野においては、市議会だよりの充実や議会報告会などの取り組みを中心に、広聴機能、市民参加について充実を図るべく、議会報告会でワールドカフェ方式での市民との意見交換を行っている。また、今年度は初の取り組みとして、若い世代の声を聴き、市政に反映する契機とするため、市内高校と連携し、高校生との意見交換会を開催するなど、高校生を対象とした広聴広報活動をスタートさせた。  
八尾市議会では、市内高校の書道部や写真部、美術部などの作品を議会だよりの表紙に起用するなど、「市議会×高校生プロジェクト」として、高校生とのコラボ企画に取り組んでいる。また、主権者教育の一環として、政治に関心を持ってもらい議会を身近に感じてもらうため、高校生と議員との座談会「Meet & Greet with 八尾市議会 2019」を開催するなど、若者に政治への関心を持ってもらう取り組みを行っている。これらの取組について視察し、今後の委員会としての若年層に向けた広聴広報活動の参考とするため、視察を行った。
- 5 視察の概要  
八尾市議会吉村拓哉副議長歓迎の挨拶、浅野委員長の挨拶の後、担当者から視察事項の説明、質疑応答が行われた。その後、小林副委員長の御礼の挨拶を行い、視

察を終了した。

## 6 概要説明

### 【市議会×高校生プロジェクト 経緯】

平成 27 年 6 月に公職選挙法の一部が改正され、選挙権年齢が満 20 歳以上から満 18 歳以上に引き下げられたことから、「やお未来議会」を開催し、選挙を体験してもらいイベントを開催していたが、実際に参加した生徒からは議員を身近に感じられないという意見があったため、議員や議会を身近に感じてもらえるように検討した結果、議会だより編集委員会を中心に高校生とコラボした様々な取組として、市議会だよりの表紙・題字を高校の部活の作品や活動写真を使用している。

大阪府内では高校の統廃合が進められていたため、生き残りをかけて学校をアピールしていきたいという高校側の考えもあり、活躍している運動部と比べて注目されにくい文化部を中心に表紙に使用してほしいという要望があった。

### 【議会としての活動】

高校側の要望にあった文化部をアピールする方法として、書道部に市議会だよりの題字を書いてもらったり、漫画研究部に表紙等のイラストを描いてもらったりしていくうちに、学生の写真を表紙に起用するようになった。また、当初は事務局が高校側に連絡を取って取材していたが、議員が高校に出向いて取材を行うようになった。その中で、やお未来議会とは違う、議会に対する「イメージの生の声」を聞く機会にもなった。

### 【Meet & Greet with 八尾市議会】

やお未来議会の経験を生かすための取組として、質問の事前通告や台本を無くした市議会×高校生プロジェクトの集大成として、学生の意見を市議会だよりに反映させて、よりよい誌面にしていくことを目的に実施した。

#### <開催テーマ>

平成 30 年「議会の広報について」 令和元年「議会の動画配信について」

### 【課題と効果】

八尾市の投票率は、総務省が公表している年代別投票率と平均すると高くなっ

ている。市議会の取組が直接の効果につながっているかについては不明だが、議員を身近に感じてもらえたことで、若者の意識の中にとっかかりができたのではないかと考えている。今後については、「SNSを活用した情報発信を行ってはどうか」という高校生の声を取り入れて、SNSによる情報発信を開始した。

## 7 質疑応答

質疑 取組を始めたきっかけや盛り上がってきた理由は何か伺いたい。

応答 やお未来議会に参加した高校生から前向きな意見が出てこなかったため、議員や議会を身近に感じてもらえる方法を検討した結果、生の議員の姿を知ってもらいたいと考えたことがきっかけになりました。

質疑 企画は事務局主導で進めてきたのか、議員側からの意見や要望からなのか。今年度、当市で初めて開催した高校生との意見交換会は広聴広報委員会主導で進めてきたものである。

応答 事務局主導です。意思決定は委員会で行いますが、事務局からの助言がスタートになっています。

質疑 八尾市議会だよりは市政だよりと合冊になっている。市の広報誌は毎月発行され、市議会だより定例会ごとの発行になると思うが、八尾市の広報は年間4回ということなのか。

応答 市の広報は毎月発行されていて、定例会があった際に合冊される形になります。

質疑 Meet & Greet with 八尾市議会は5つの高校から27人が参加しているが選抜の方法はどうしているのか。また、議会を紹介するビデオは予算化してプロに委託しているのか。ビデオは毎年作成するのか。

応答 各高校の教頭先生を通じたり、市議会だよりの取材に出向いた部活の生徒から参加したりしています。ビデオの作成は職員のスキルで作成しています。イベントを開催した際には編集して視察等で紹介するための映像を作っていますが、コロナ禍で視察受入がなかったということもあり、令和2年度、令和3年度には映像は作成していません。

質疑 高校生とのイベントには委員のみが参加して、委員外の議員は参加できないと思われるが、委員外でも参加したい議員はいると思う。今後はどうしていくの予定なのか。当市では広聴広報委員会に所属していない議員からイベントへの参加を希望する意見が出ているが、八尾市議会の議会だより編集委員会に所属していない議員から参加を希望する意見は出ているか。



応答 当市でも委員会に所属していない議員から参加を希望する意見が出ています。ですので、編集委員会の委員のみが参加しているイベントの動画は一般公開しておりません。動画の公開については、編集委員会ではなく各会派の代表者の参加する会議等で検討していくことになるのではないかと考えています。

質疑 SNSの使い方としては会議日程を発信しているようだが、活用方法はどのようにしていくのか。また、若い世代はインスタグラムを利用していることが多いと思うが、他のSNSを活用することは検討しているのか伺いたい。

応答 SNSを始めた時にどのように使うか検討しました。会期中であれば会議の通知や議決結果を発信しています。閉会中は議会の豆知識や用語解説、議会に関係のない情報を発信しています。また、他のSNSの活用は考えていません。

## 8 委員長所感

議会だよりの表紙に「高校の文化部生徒の作品」を採用するとともに、高校生へのアンケートも掲載して、主権者である未来を担う高校生との交流を活発に行っていた。大阪府内では、府立高校の統廃合が進められているために、行き残りをかけて学校のアピールをしていきたいという高校側の意向と、大会等の結果で活躍が表面化しやすい運動部と比べて、注目されづらい文化部を中心に表紙にして欲しいとの要望もあり、大変有意義な企画だと思った。

また、議員を身近に感じてもらうためには、どのような企画をしたらよいか等を高校生に聞く座談会を開催し、「SNSを活用するのがよい」等の多くの意見が出され、その意見を反映し、SNSを活用した議会の見える化に力を入れていることが伝わってきた。若年層に向けた広聴広報活動や市民に開かれた議会を目指す上で、とても参考になった。